



**2018年3月期 第3四半期
決算補足説明資料**

2018年1月31日（水）

**ウェーブロックホールディングス株式会社
証券コード：7940
（東証二部）**

- **売上高 20,934百万円（前年同期比 4.7%増）**
 - ・ インテリア事業の販売好調が売上増に寄与（前年同期比11.6%増）
 - ・ アドバンステクノロジー事業においては、金属調加飾フィルム分野が、インド・東南アジアの案件の伸張や、国内家電向け新規案件などで大きく寄与。PMMA/PC2層シート分野の落ち込みをカバーした上で、前年比+1.3%まで積上げ
 - ・ 編織事業、産業資材・包材事業は前年並みで推移

- **営業利益 1,492百万円（前年同期比 47.3%増）**
 - ・ インテリア事業においては、販売好調による操業度向上、生産効率の向上等による原価低減や継続的なコスト削減等により、一関工場拡張に伴う減価償却費の増加を吸収した上で利益大幅増を実現
 - ・ 国産ナフサ価格は想定43,000円/kLに対して、第3四半期を通じて平均39,000円/kLとなるも、期初在庫を含む市場価格とのタイムラグや、ナフサに連動しない部分のコスト増等もあり、収益に与えた影響は30~40百万円プラス程度と限定的

- 第4四半期は、現在の状況が継続すると想定するも、原材料価格が上昇傾向なこと、及び、例年、第4四半期における利益貢献が大きい編織事業のホームセンター向け需要期初回導入のボリュームが、決算期末直前まで確定できないことなどから、現在の通期業績予想は据え置く

- 売上高は、前年同期比4.7%増で堅調に推移。インテリア事業が売上増を牽引
- 営業利益は1,492百万円となり、前年同期比47.3%増。10/31公表の通期予想値に対して進捗率82.9%

(単位：百万円)

	2017年3月期 第3四半期	2018年3月期 第3四半期	前年比 増減	前年比 増減率	10/31発表 通期業績見込	進捗率
売上高	19,993	20,934	+940	+4.7%	28,100	74.5%
営業利益	1,013	1,492	+479	+47.3%	1,800	82.9%
経常利益	1,289	1,765	+475	+36.9%	2,170	81.3%
親会社株主に帰属する 当期純利益	934	1,314	+380	+40.7%	1,600	82.1%
1株あたり 当期純利益※	87.62	133.42			162.08	

※：発行済株式総数から自己株式等を控除した期中平均株式数により計算しています。期中平均株式数は、2017年3月期第3四半期は10,659,978株、2018年3月期第3四半期は9,849,741株です。

(単位：百万円)

	2017年3月期 第3四半期 (実績)	2018年3月期 第3四半期 (実績)	前年比 増減	前年比 増減率
売上高	19,993	20,934	+940	+4.7%
インテリア	6,041	6,742	+701	+11.6%
編織	6,280	6,265	△ 14	△0.2%
産業資材・包材	6,751	6,818	+67	+1.0%
アドバンステクノロジー	2,584	2,619	+34	+1.3%
その他・消去	△ 1,663	△ 1,511		
営業利益	1,013	1,492	+479	+47.3%
インテリア	324	613	+289	+89.3%
編織	487	593	+105	+21.6%
産業資材・包材	244	255	+11	+4.8%
アドバンステクノロジー	190	293	+102	+53.9%
その他・消去	△ 233	△ 263		

インテリア事業

- 新設住宅着工戸数が前年比伸び悩む中、(株)サンゲツの壁紙見本帳への当社グループ製品の掲載点数の増加等が、引き続き販売増に寄与
- 生産能力の増強による増産体制の構築、生産効率の向上による原価低減や継続的なコスト削減が利益を押し上げ

編織事業

- 住宅資材分野において、園芸向け防草シートの販売等が奏功し、おおよそ前年並みと堅調
- 国内・海外工場における生産効率の向上や原価低減、継続的なコスト削減が利益に寄与

産業資材・包材事業

- 産業資材分野において、建設および住宅関連業界での堅調な需要や、防煙垂壁用途の高透明不燃シート、間仕切りシート等が好調に推移
- 包材分野において、コンビニエンス向けの食品容器が底堅く推移

アドバンステクノロジー事業

- 金属調加飾フィルム分野において、インド・東南アジアにおける新規採用や、中国での自動車内装案件等が好調に推移。加えて、北米向けや国内家電向け新規販売により、国内自動車内装案件の早期エンドによる減少分をカバー
- PMMA/PC2層シート分野は、中国での販売不振や設備トラブル等を主因として売上大幅減
- 医療用湿布基材の受注が復調

セグメント別四半期業績推移

- インテリア事業は、従来より第4四半期に販売・生産数量が比較的增加し、利益増となる傾向。増点採用された新見本帳による販売効果が第3四半期頃から本格的に寄与
- 編織事業においては、ホームセンター向けの生活資材分野は3月末～8月が需要期。ホームセンターへの需要期最初の納品日は3月末の直前に決定されるため、その納品日によっては通期の売上高、利益に影響
- アドバンステクノロジー事業では、前年度第1四半期好調だったPMMA/PC2層シート分野のつまずきから、上半期は前年比マイナスで推移したものの、第3四半期の金属調加飾フィルム分野の好調等により前年比プラスに転換

(単位：百万円)

	1Q (実績)	前年比*	通期 進捗率	2018年3月期						通期 (業績見込)	前年比
				2Q累計 (実績)	前年比*	通期 進捗率	3Q累計 (実績)	前年比	通期 進捗率		
売上高	7,649	+2.6%	27.2%	14,381	+2.7%	51.2%	20,934	+4.7%	74.5%	28,100	+4.5%
インテリア	2,173	+8.8%	24.1%	4,341	+7.8%	48.2%	6,742	+11.6%	74.9%	9,000	+8.6%
編織	2,836	△2.2%	34.0%	4,822	△1.0%	57.8%	6,265	△0.2%	75.0%	8,350	△0.3%
産業資材・包材	2,346	+7.6%	24.4%	4,630	+3.4%	48.2%	6,818	+1.0%	71.0%	9,600	+5.5%
アドバンステクノロジー	842	△9.2%	23.4%	1,643	△9.5%	45.6%	2,619	+1.3%	72.8%	3,600	+7.7%
その他・消去	△ 549			△ 1,055			△ 1,511			△ 2,450	
営業利益	744	+24.4%	41.4%	1,118	+23.8%	62.1%	1,492	+47.3%	82.9%	1,800	+32.4%
インテリア	215	+42.8%	29.1%	408	+77.2%	55.2%	613	+89.3%	83.0%	740	+38.6%
編織	428	+27.2%	64.9%	553	+17.8%	83.9%	593	+21.6%	89.9%	660	△0.7%
産業資材・包材	128	+85.6%	37.8%	196	+16.2%	57.7%	255	+4.8%	75.3%	340	+7.6%
アドバンステクノロジー	60	△47.4%	15.9%	130	△28.7%	34.4%	293	+53.9%	77.2%	380	+78.4%
その他	△ 88			△ 170			△ 263			△ 320	
経常利益	824	+32.9%	38.0%	1,297	+31.2%	59.8%	1,765	+36.9%	81.3%	2,170	+27.9%
親会社株主に帰属する 当期純利益	598	+33.2%	37.4%	954	+33.2%	59.7%	1,314	+40.7%	82.1%	1,600	+44.4%

※：2017年3月期第1四半期～第2四半期については四半期連結財務諸表を開示しておりませんが、有限責任監査法人トーマツにより、東京証券取引所の「有価証券上場規程」第204条第6項の規定に基づき四半期レビューが実施された「新規上場のための四半期報告書」の数字を掲載しております。

本資料の作成にあたり、当社は当社が入手可能な情報の正確性や完全性に依拠し、前提としていますが、その正確性あるいは完全性について、当社は何ら表明及び保証するものではありません。

また、将来に関する記述が含まれている場合がありますが、実際の業績は様々なリスクや不確定要素に左右され、将来に関する記述に明示又は黙示された予想とは大幅に異なる場合があります。したがって、将来予想に関する記述に全面的に依拠することのないようご注意ください。

本資料及びその記載内容について、当社の書面による事前の同意なしに、第三者が、その他の目的で公開又は利用することはできません。